吸不全の発生頻度が低く，入院期間も短かったとされ，高齢者ほど上行大動脈の動脈硬化性病変が強く，上行大動脈への手術操作によるアテローム脳塞栓のリスクも軽減する効果も期待できる．

e．糖尿病

糖尿病例は，硬化変性の著明な冠動脈や縦隔炎など周術期合併症の懸念や遠隔期の心事故の危険因子である．これまでの大規模studyの結果から，遠隔成績の観点からカテーテル治療に対するCABGの優位性が大きいとされ，より外科的な血行再建を選択する根拠となっている．糖尿病には，び慢性に血管径が狭小化した冠動脈枝がしばしば見られる．国立循環器病センターでは，off-pump CABGにおいても，積極的に狭小冠動脈に対して吻合を行っており，全バイパス吻合箇所のうち，約1/3は内径1.5mm未満の狭小冠動脈枝である．術後のカテーテル検査では，血管径1.5mm以上と以下とでグラフト開存率に差はなく，良好な開存が得られた．

罹患枝数による適応については，本邦での報告も欧米の成績と現時点では明らかな差はなく，ガイドラインに沿った判断が妥当と思われる．CABGの適応には，全身状態の評価が不可欠であるが，手術成績のさらなる向上のためには，個々の症例についてこれらリスク要因を評価し，各患者の特徴に合わせた治療方針の選択が重要と考えられる．

（中嶋博之）

文献

1) ACC/AHA 2004 guideline update for coronary artery bypass graft surgery: a report of the American College of Cardiology/American Heart Association Task Force on Practice Guidelines (Committee to Update the 1999 Guidelines for Coronary Artery Bypass Graft Surgery).Eagle KA, et al; American College of Cardiology; American Heart Association.Circulation. 2004;110(14):e340-437. No abstract available. Erratum in: Circulation. 2005;111(15):2014.

2) Puskas J, Cheng D, Knight J, et al. Off-pump versus conventional coronary artery bypass grafting: A Meta-analysis and consensus statement from the ISMICS consensus conference. Innovation 2005;1:3-27.

3) 日本循環器学会．虚血性心疾患に対するバイパスグラフトと手術術式選択のガイドライン．Circ J 2006. 70;Suppl V:1477-1568.

治療トピックス

心筋疾患

心筋症の外科治療

心筋症は，主として肥大型心筋症と拡張型心筋症に分けられる．肥大型心筋症の約 1/4 の症例に左室流出路狭窄を認め，肥大型閉塞性心筋症（HOCM）として外科的治療の対象となる．本稿ではHOCMの外科治療について述べる．

1．HOCMの概念

HOCMは，特発性肥大性大動脈弁下狭窄とほぼ同義語である．流出路圧較差上昇による左室圧上昇と左室肥大が，心筋の壁応力の上昇・酸素消費量増加・相対的虚血を引き起こし，胸痛・動悸・息切れ・失神などの臨床症状を生じる．またHOCMには，しばしば僧帽弁閉鎖不全を合併する．これは，僧帽弁前尖がVenturi効果により収縮期に流出路に引き込まれる前方運動（systolic anterior motion：SAM）により起こるとされており，流出路狭窄を増強させる因子となっている．

2．手術適応

最大限の薬物治療（β遮断薬・Ca拮抗薬・抗不整脈薬）によっても，なお症状のコントロールが困難で，QOLが著しく障害される患者においては外科的治療が検討されるべきである．近年報告されたACC/ESCによるHOCMガイドラインにおいても，手術の適応となるのは，最大限の薬物治療に抵抗性であり，安静時の左室流出路最大圧較差が50 mmHg以上，労作時の呼吸困難や胸痛によりNYHA分類のⅢ～Ⅳ度に相当する症例であるとしている．二腔ペーシング（DDD）によるペースメーカー植込み術，あるいは，カテーテルにより左冠動脈の中隔枝に無水アルコールを注入して，流出路中隔の肥大心筋を梗塞に陥らせる経皮的心筋中隔アブレーション法（PTSMA）も考慮する必要がある．

外科治療が，生命予後を改善するという報告がないため，手術は重篤な症状

の改善によるQOLの向上を目的とすることとなる．また症状が軽度であっても，心肺蘇生を受けた患者は適応となる．

3．手術術式とその選択

Morrowらが報告したMyotomy-Myectomy法が確立された手術術式である[1,2)]．上行大動脈を切開し，大動脈弁を介して肥大した左室側の中隔心筋にアプローチする．約1 cm離れた2本の平行する中隔基部に垂直な切開を1.0～1.5 cmの深さに入れて，これを心尖に向けて約4 cm進める．中隔に平行した第3の切開を加えて，心筋を切除する．この際に刺激伝導系と膜様部中隔を傷つけないように注意を要する．また大動脈弁を損傷しないように心筋切除は弁下の5 mmから開始する（**図1**）．肥大領域によっては，積極的に切除範囲を拡大し乳頭筋基部の部分切除にまで至るextended myectomyの報告もみられる．

僧帽弁置換術（MVR）もHOCMに対する手術法の一つである．現在では血行動態の優れた機械弁が使用可能となっているが，ワルファリンを永続的に服用しなければならず，機械弁にともなう合併症も起こりうる．適応として，1）非対称性心室中隔肥大（atypical septal hypertrophy：ASH）が著明でなく，流出路中隔の壁厚が18 mm以下の症例，2）心基部の中隔が比較的薄く，僧帽弁と接する中隔が肥厚しているもの，肥大が広範囲にわたり存在し，すべての中隔が一様に肥厚している非定型的な中隔の解剖，3）HOCMに対してMorrow法が施行されたが，圧較差が残存して症状のある再手術症例，4）器

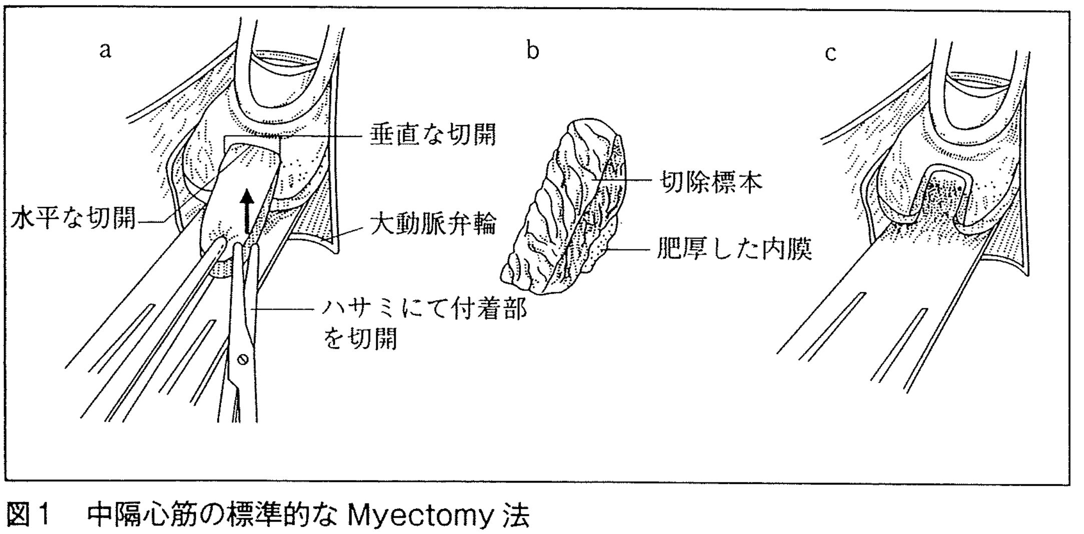


図1　中隔心筋の標準的なMyectomy法

（McIntosh CL, et al. Ann Thorac Surg 1989[2)] より）

質的な僧帽弁異常のある症例が適応とされている.非定型的な中隔の解剖とは,心基部の中隔が比較的薄く,僧帽弁と接する中隔が肥厚しているもの,肥大が広範囲にわたり存在し,すべての中隔が一様に肥厚しているものと考えられる.

MVR は手技的に容易で,術者の技術に左右されない成績が得られ,中隔肥厚の形態によっては HOCM に対する有用な術式と考えられる.MVR では左室拡張能が Morrow 法より改善するとされるが,そのためには僧帽弁は,乳頭筋の基部まで切除し,異常な筋束を切除して,左室内腔を球形に拡大させることが重要である.機械弁は,St' Jude Medical 弁などの左室に突出しないプロフィールの低いものを選択すべきであり,高齢者でも生体弁は不適である.

4. 術後管理

Morrow 法では術直後も,流出路に dynamic な狭窄が残存すると考えて,カテコラミン・ジギタリスの使用を控える.血圧維持の目的であればノルアドレナリンを使用し,原則として血管拡張薬は禁忌である.左室拡張能は低下しており,また内腔も小さいことから,適正な前負荷の管理が重要である.左室肥大のため,術後洞調律の維持は重要であり,頻脈に対しては β 遮断薬が有効である.術前使用している β 遮断薬・Ca 拮抗薬・抗不整脈薬は続けておく.

5. 手術成績及び遠隔成績

HOCM に対する手術及び遠隔成績を**表 1** に示す[2-8].Morrow 法単独の場合,手術リスクは 1 ~ 3%と低い報告が多い.しかし,高齢者や再心筋切除症例,あるいは他の心臓手術の併施例では高くなる傾向にあるといわれている.Morrow 法の合併症としては,完全房室ブロックや心室中隔穿孔などの重篤なものもあるが,頻度は 1 ~ 2%以下であると報告されている.これに対し,完全左脚ブロックは術式上避けがたい合併症であるが,遠隔期に及ぼす影響は少ないと思われる.

本邦における HOCM に対する外科治療の現況を,2000~2004 年度の日本胸部外科学会 Annual report でみると Morrow 法は後天性心疾患に対する開心術全 168,666 例中 202 例(0.12%)とまれであり,同時に MVR が 71 例に,MVP が 27 例に行われている.死亡率は 10.4%と欧米の報告に比し高い.

遠隔成績については,左室内圧を収縮期および拡張末期において減少させることから,臨床症状を術後 5 年以上にわたり軽減,消失させることが報告され

表1 閉塞性肥大型心筋症の外科治療成績

報告者	施設	発表年度	症例数	手術術式	手術死亡率	遠隔生存率
McIntosh[2]	NIH	1988	156	 M法 108例 MVR 48例	全体 3.8% 2.7% 6.2%	
McCully[3]	Mayo Clinic	1996	65	 M法 45例	全体 4.6% 0%	5年 92%
Schulte[4]	Heine University	1999	519		4.4%	10年 88% 20年 72%
Scoendube[5]	Aachen	2004	82	M法 82例	1.2%	5年 94% 10年 86%
Minami[6]	Bad Oeynhansen	2002	125	M法 125例	1.6%	5年 90% 10年 83%
Ommen[7]	Mayo Clinic 他	2005	289	M法 289例	0.8%	5年 96% 10年 88%
Smedira[8]	Cleveland Clinic	2008	323	M法 323例	0%	5年 95% 8年 90%

M法：Morrow法，MVR：僧帽弁置換

ている．5年生存率は90〜96%，10年生存率は83〜86%と良好であり（**表1**）臨床症状がNYHAのⅠ，Ⅱとなる症例が70〜94%である．

術後フォロー中の年間死亡率は0.6〜1.8%と報告されている．術後の血行動態の変化として，左室流出路圧較差はMVRもMorrow法も，ともに平均20 mmHg以下に減少するが，左室拡張末期圧はMVRでMorrow法に比べてより低下する．遠隔期の問題として，大動脈弁閉鎖不全がある．大動脈弁輪の小さな症例，中隔の肥厚が基部より心尖にあり，僧帽弁前尖との接触部あるいは，さらに心尖部にあった症例が，大動脈弁閉鎖不全を起こしやすいとされる．

6．ほかの非薬物治療と外科治療の位置づけ

近年外科治療にかわる治療法として，ペーシング治療やPTSMAが積極的に行われるようになっているが，合併症の危険もあり，また大動脈弁直下に限局したASHによる狭窄以外では理論的に無効である．したがって，広範な流出路狭窄に対しては，今後も外科治療が選択されるべきであると考えられる．

（小林順二郎）

文献

1) Morrow AG, Reitz BA, Epstein SE, et al. Operative treatment in hypertrophic subaortic stenosis. Circulation 1975;52:88-102.

2) McIntosh CL, Greenberg GJ, Maron BJ, et al. Clinical and hemodynamic results after mitral valve replacement in patients with obstructive hypertrophic cardiomyopathy. Ann Thorac Surg 1989;47:236-46.
3) McCully RB, Nishimura RA, Tajik AJ, et al. Extent of clinical improvement after surgical treatment of hypertrophic obstructive cardiomyopathy. Circulation 1996;94:467-471.
4) Shulte HD, Borisov K, Gams E, et al. Surgical management of hypertrophic obstructive cardiomyopathy. Thorac Cardiovasc Surg 1999;47:213-218.
5) Schoendube FA. Surgical treatment of hypertrophic obstructive cardiomyopathy. Eur Heart J 2004;3 (Suppl L): L26-31.
6) Minami K, Boethig D, Woltersdorf H, et al. Long term follow-up of surgical treatment of hypertrophic obstructive cardiomyopathy (HOCM): the role of concomitant cardiac procedures. Eur J Cardio-thorac Surg 2002; 22:206-210.
7) Ommen SR, Maron BJ, Olivotto I, et al. Long-term effects of surgical septal myectomy on survival in patients with obstructive hypertrophic cardiomyopathy. J Am Coll Cardiol 2005;46:470-476.
8) Smedira NG, et al. Current effectiveness and risks of isolated septal myectomy for hypertrophic obstructive cardiomyopathy. Ann Thorac Surg 2008;85:127-134.

冠動脈疾患

虚血性僧帽弁閉鎖不全症

1. 虚血性僧帽弁閉鎖不全の重要性と成因

虚血性僧帽弁閉鎖不全（IMR）は，腱索延長や断裂により生じる器質的MRと異なり，予後不良の慢性疾患である．IMRは，虚血性心筋症による心不全患者において半数以上に認められ，MRのない患者の予後に比べて2倍から10倍不良である．IMRは，虚血性心疾患の10〜20%に認められ，その原因は，心筋梗塞や心室線維化によるremodelingのためにおこる弁輪拡大に加えて，左室拡大により乳頭筋が偏位し，腱索が僧帽弁の腱索を左室内に引き込んで，いわゆるtetheringを起こし弁尖の接合が不良となることで発生する[1]（**図1**）．いったん発生したIMRにより，左室・僧帽弁輪はさらに拡大して，IMRを増

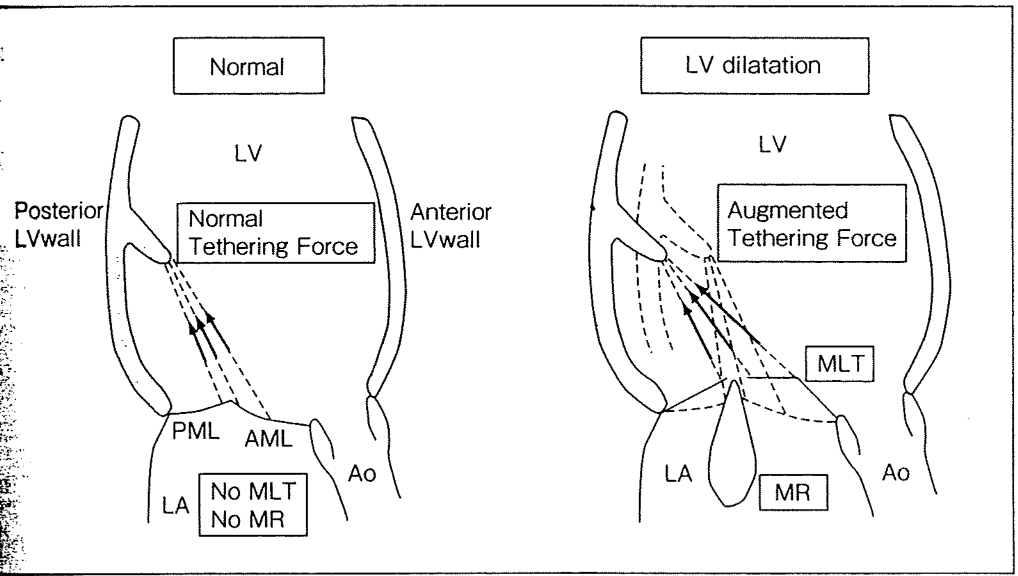


図1 虚血性僧帽弁閉鎖不全の発生機序

心筋梗塞や心室線維化によるremodelingのために乳頭筋が偏位し，僧帽弁の腱索を左室内に引き込んでtetheringを起こし，弁輪拡大が加わって，両弁尖の接合が不良となることで発生する．

LV: 左室，LA: 左房，Ao：大動脈，AML: 前尖，PML: 後尖，MR: 僧帽弁閉鎖不全，MLT: 僧帽弁tethering

（Kumanohoso T, et al. J Thorac Cardiovasc Surg 2003[1]より）

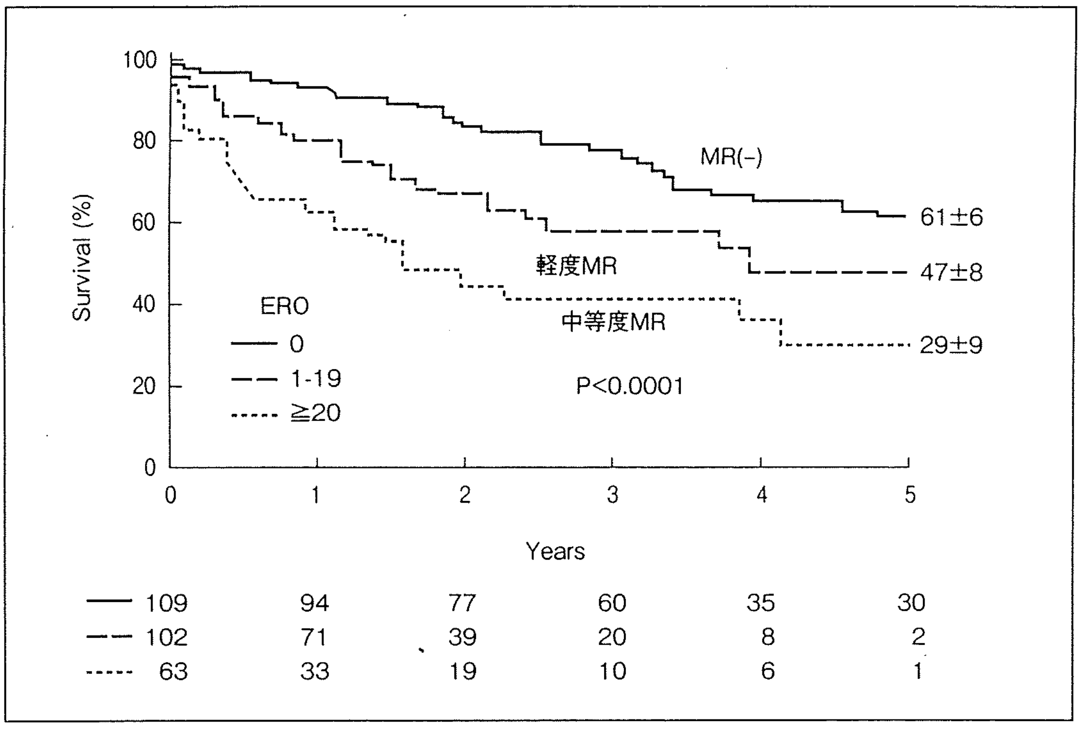


図２　梗塞後 MR の有無と重症度による生命予後

MR の有無とその程度により，生命予後に差がある．逆流孔面積（ERO）が 20 mm^2 と器質的 MR では軽度とされる患者においても予後が悪い．

（Grigioni F, et al. Circulation 2001[2) より）

大させる悪循環をきたす．乳頭筋の虚血による機能不全も IMR に関与するが，その程度は小さいと考えられる．

軽度の IMR は，一般的には，外科治療の対象にはならないと考えられるが，IMR を合併した患者の自然予後において，逆流孔面積が 20mm^2 と器質的 MR では軽度ないし中等度とされる患者においても，MR のない患者に比べて予後が悪いことが問題である[2)]（**図２**）．

２．IMR の手術適応と単独 CABG の効果

中等度の IMR を有する患者において，冠動脈バイパス術（CABG）と同時に僧帽弁手術（主として弁輪縫縮術）を行うべきか否かに関しては，CABG のみでは MR は改善しないとの報告が多い．MR が中等度以下でも心機能不良例では，CABG に加えて積極的に弁輪縫縮術を行うべきであると考えられる[3)]．

３．IMR に対する手術術式

IMR に対する外科治療においても，弁置換術に比べて，弁形成術が優れて

いることが報告されているが[4]，弁形成術ではMRが残存あるいは再発することがあり，すべての症例において弁形成術が可能となるわけではない．

弁形成術としては，一般的には縫合糸による縫縮よりも，小さなサイズの人工弁輪を使用した弁輪縫縮術が長期的に効果があるとされる．弁輪縫縮術は，僧帽弁の前後径を短縮させ，弁尖の接合性を改善させるが，術前に弁尖のtetheringが強く，接合部が左室内に偏位しその程度が高度であれば，弁輪縫縮後もMRが残存する．僧帽弁輪から前後尖接合部までの距離をtethering heightあるいはcoaptation depthと呼び（**図3**）[5]，正常では4mm以下で，10mm以上は高度tetheringと考えられ，弁輪縫縮術ではIMRが残存するため，前後尖の腱索を温存した弁置換術が望ましいとの考えもある[6]．

僧帽弁尖形成術として，前後尖を縫合して僧帽弁を二つの弁口にするedge-to-edge repairや弁尖の弁腹をパッチで延長するなどにより前後尖の接合を深くする方法が行われている．最近，tetheringにより制限された弁尖の二次腱索を直接切断する方法が注目されているが，いまだ確立された方法ではない[7]．

IMRは，左室自体の疾患であることから，左室あるいは乳頭筋に対して直接手を加える方法として，乳頭筋同士を縫合したり，乳頭筋間の左室や梗塞領域を縫合あるいは切除して乳頭筋を本来の位置に偏位させてtetheringを軽減したりする手術が行われている．また，乳頭筋に人工腱索を付けて，僧帽弁輪へ縫合して短縮させ，乳頭筋と僧帽弁輪の距離を縮めて，tetheringを軽減する方法も行われている．

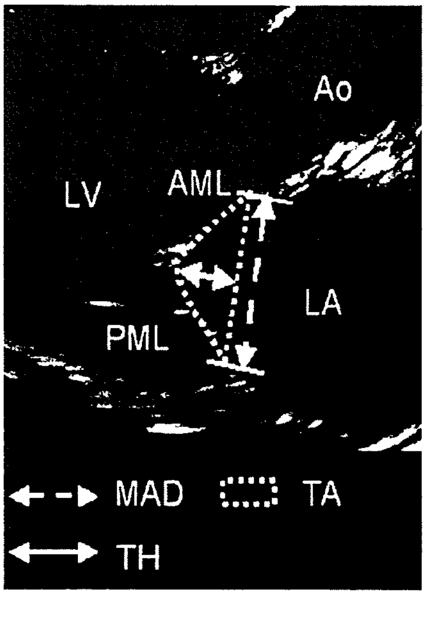


図3　僧帽弁tetheringの重症度評価
僧帽弁輪から，前後尖接合部までの距離をtethering height（TH）と呼び，正常では4 mm以下で，10mm以上が高度と考えられる．
MAD: mitral annular diameter,
TA: tethering area (tenting area),
TH: tethering height (normal:<4 mm).
(Daimon M, et al. Circulation 2006[5] より)

4．IMRに対する手術成績および遠隔成績

日本胸部外科学会のデータベースによると2002年から2006年までの病院死亡率は，CABG単独手術の2～3倍高い．Cleveland Clinicの遠隔成績でも，1年生存率82%，5年生存率58%と，単独CABG後の成績に比べて不良である[8]．

術後のMR再発に関しては，遠隔期の再発は少なからずあるとする報告が多く，改善あるいは消失したと考えられたIMRが，術後数か月の早期から30%以上の症例で2度以上となっているとされている[9,10]．IMRの再発の危険因子として左室の球状化が指摘されており，IMRが左室の拡大・収縮性・形態といった病態と強く関係することを考慮して，左室形成術を含めた外科治療戦略が必要となる．

（小林順二郎）

文献

1) Kumanohoso T, et al. Mechanism of higher incidence of ischemic mitral regurgitation in patients with inferior myocardial infarction: Quantitative analysis of left ventricular and mitral valve geometry in 103 patients with prior myocardial infarction. J Thorac Cardiovasc Surg 2003; 125: 135-143.
2) Grigioni F, et al. Ischemic mitral regurgitation: long-term outcome and prognostic implications with quantitative Doppler assessment. Circulation 2001;103,1759-1764.
3) Enriquez-Sarano M, et al. Valve repair improves the outcome of surgery for mitral regurgitation. Circulation 1995;91:1022-1028.
4) Fukushima S, et al. Late outcomes after isolated coronary artery bypass grafting for ischemin mitral regurgitation. Jpn J Thorac Cardiovasc Surg 2005;53:354-360.
5) Daimon M, et al. Mitral valve repair with Carpentier-McCarthy-Adams IMR ETlogix annuloplasty ring for ischemic mitral regurgitation: early echocardiographic results from a multi-center study. Circulation 2006;114（suppl Ⅰ）：Ⅰ 558-593.
6) Calafiore AM, et al. Mitral valve procedure in dilated cardiomyopathy. repair or replacement? Ann Thorac Surg 2001;72:1146-1153.
7) Borger MA, et al. Initial results of chordal-cutting for ischemic mitral regurgitation. J Thorac Cardiovasc Surg 2007;133:1483-1492.
8) Gillinov AM, et al. Is repair preferable to replacement for ischemic mitral regurgitation? J Thorac Cardiovasc Surg 2001；122:1125-1141.
9) Grossi EA, at al. Ischemic mitral valve reconstruction and replacement. Comparison of long-term survival and complications. J Thorac Cardiovasc Surg 2001;122:1107-1124.
10) McGee EC, et al. Recurrent mitral regurgitation after annuloplasty for functional ischemic mitral regurgitation. J Thorac Cardiovasc Surg 2004;128: 916-924.

Circ J 2009; **73:** 1219–1227

Improved Long-Term Prognosis of Elderly Women in the Era of Sirolimus-Eluting Stents

Yu Kataoka, MD; Satoshi Yasuda, MD*; Isao Morii, MD**; Atsushi Kawamura, MD†; Shunichi Miyazaki, MD††

Background: The angiographic characteristics and prognosis in elderly women in relation to the therapeutic impact of sirolimus-eluting stents (SES) need to be clarified.
Methods and Results: Quantitative coronary angiography analysis was performed in 1,374 patients with coronary artery disease: 670 patients were treated with a bare metal stent (BMS) and the remaining 704 were treated with SES. Patients were divided into 4 groups according to gender and age (<75 years M/F, ≥75 years M/F), and major adverse cardiovascular events (MACE) were compared among them. Women ≥75 years old tended to have 3-vessel disease with small vessel size and the incidence of MACE in this group was high in the BMS era. However, in the SES era, this prognosis improved by reducing all-cause death and target vessel revascularization.
Conclusions: Using SES has a therapeutic advantage for the high-risk population of elderly women with angiographically unsuitable lesions for percutaneous coronary intervention. (*Circ J* 2009; **73:** 1219–1227)

Key Words: Coronary artery disease; Elderly women; Sirolimus-eluting stent

Many pivotal trials have demonstrated that the sirolimus-eluting stent (SES) has significantly decreased the rate of restenosis and the need for recurrent intervention compared with bare metal stents (BMS).[1,2] In the real world, the SES is used for more complex lesions and favorable results have been achieved for percutaneous coronary intervention (PCI), especially a reduction in the need for revascularization.[3–7]

Coronary artery disease (CAD) is now the main cause of death in women.[8] The Women's Ischemia Syndrome Evaluation (WISE) Study demonstrated that women, especially older women, are particularly at risk of increased morbidity and mortality.[9–11] Other studies evaluating the outcome of PCI have also reported higher rates of mortality and major complications in women compared with men.[12–16] Therefore, it is possible that the poor outcome of PCI in elderly women is related to the development of severe atherosclerotic changes, probably because of clustering of coronary risk factors. However, there is a lack of data regarding the characteristics and prognosis in elderly women with CAD, and it remains unknown whether SES reduces the major adverse cardiovascular events (MACE) and improves the prognosis in this particular population.

(Received May 1, 2008; revised manuscript received January 8, 2009; accepted February 3, 2009; released online April 28, 2009)

*Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, National Cardiovascular Center, Suita, *Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Tohoku University Graduate School of Medicine, Sendai, **Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Hokusetsu General Hospital, Takatsuki, †Department of Internal Medicine, Central Hospital, Fukuyama and ††Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Kinki University School of Medicine, Osakasayama, Japan*

Mailing address: Shunichi Miyazaki, MD, Division of Cardiology, Department of Internal Medicine, Kinki University School of Medicine, 377-2 Ohno-Higashi, Osakasayama 589-8511, Japan. E-mail: smiyazak@med.kindai.ac.jp

Methods

Patients

From April 2000 through December 2005, 2,597 patients with CAD underwent PCI at the National Cardiovascular Center, Suita, Japan (**Figure 1**). In Japan, SES became commercially available in August 2004, so in the present study, the BMS era was defined as between April 2000 and July 2004, and the SES era was between August 2004 and December 2005.

Of the total, 1,232 patients were treated in the BMS era and 1,365 patients were treated in the SES era. Patients with a history of coronary artery bypass graft surgery and patients with chronic total occlusion were excluded from the study because of the difficulty of quantitative coronary angiography (QCA) analysis. In addition, patients treated with balloon angioplasty, rotational atherectomy or directional coronary atherectomy alone were also excluded. In the SES era, we excluded patients treated with BMS that had been indicated because of planned surgery, intolerance of ticlopidine or the presence of large vessels >4.0mm diameter. In the Osaka area, the Committee of Reimbursement for Health Insurance recommends that SES should not be used for patients with acute coronary syndrome, so patients treated with a BMS for acute coronary syndrome in the SES era were also excluded. Thus, the number of patients treated with a BMS in the SES era was 216 and that with SES was 704, and the percentage use of SES in the SES era was 52%. Finally, 670 patients were included in the BMS era and 704 in the SES era. We then subdivided these populations into 4 groups according to gender and age: men <75 years old, men ≥75 years old, women <75 years old, women ≥75 years old.[17,18] The Ethical Review Board gave approval and the study was conducted according to the ethical principles of the Declaration of Helsinki and Good Clinical Practice guidelines. All subjects gave signed informed consent.

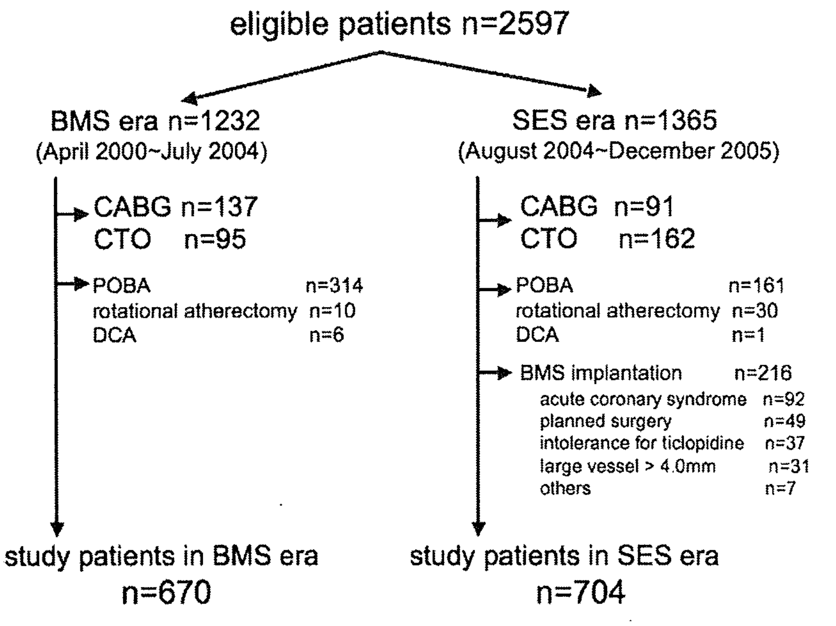


Figure 1. Flow chart of the present study. BMS, bare metal stent; SES, sirolimus-eluting stent; CABG, coronary artery bypass grafting; CTO, chronic total occlusion; POBA, plain old balloon angioplasty; DCA, directional coronary atherectomy.

Coronary Angiography and Quantitative Analysis

Selective coronary angiography was performed in multiple projections after administration of intracoronary nitroglycerin (0.125–0.25 mg). The angiographic characteristics of CAD were evaluated by computer-assisted quantitative analysis (CMS-QCA ver.4.0, Medis, Leiden, The Netherlands), as reported previously.[19] Briefly, we measured the diameter of the middle section in each major coronary segment (segments 1–3 of the right coronary artery, segments 6–8 of the left anterior descending artery, and segments 11 and 13 of the left circumflex artery) in order to calculate the average vessel diameter (AVD) for each patient. We defined segments with an irregular edge that narrowed to a diameter ≤1.5 mm as diseased lesions and calculated the average lesion length (ALL). In a previous study, lumen diameter <1.5 mm was related with sufficient sensitivity and specificity to fractional flow reserve <0.75, a level highly inducive to causing myocardial ischemia.[20] The far distal portions of segments 8 and 13 that had a smooth and regular edge were not included in the ALL measurements. The QCA data were assessed by an experienced cardiologist (I.M.) who was unaware of the patients' status.

PCI Procedure

All procedural decisions, including device selection and adjunctive pharmacotherapy, were made at the discretion of the individual PCI operator. Intravenous heparin (5,000 IU) and intracoronary nitroglycerin (0.5 mg) were administered before PCI. After stent implantation, angiographic optimization was performed by high-pressure dilatation to achieve an acceptable angiographic result. Intravascular ultrasound was used according to the operator's decision. Procedural success was defined as residual stenosis <20% without major complications. All patients received 324 mg/day of aspirin for at least 24 h before the procedure. Dual antiplatelet therapy (aspirin 300 mg and ticlopidine 200 mg) was given to all patients treated with BMS for 2 weeks and in those treated with SES for at 3–12 months. For the assessment of restenosis, exercise test or stress scintigraphy was routinely performed at 6–8 months after PCI. If myocardial ischemia was noted in this initial non-invasive testing, follow-up coronary angiography was performed.

The following types of BMS were implanted: Multi-Link plus (Guidant, Santa Clara, CA, USA) 263 patients (39%); BX-Velocity (Cordis, Johnson & Johnson, Miami Lakes, FL, USA) 170 patients (25%); NIR (Medinol, Jerusalem, Israel; and Scimed, Boston Scientific, Maple Grove, MN, USA) 95 patients (14%); Multi-Link Penta (Guidant) 75 patients (10%); Duraflex (Avantec Vascular) 50 patients (7%); S670 (Medtronic, Shoreview, MN, USA) 17 patients (3%). In the SES era, Cypher (Cordis, Johnson & Johnson) was the only type of drug-eluting stent used.

Clinical Parameters and Follow-up

All the patients underwent assessment of coronary risk factors, angiography, and laboratory analyses including fasting glucose, hemoglobin A_{1c} (HbA_{1c}), total cholesterol (TC), triglycerides (TG), high-density lipoprotein-cholesterol-(HDL-C), low-density lipoprotein-cholesterol (LDL-C) and creatinine levels. Body mass index (BMI) was calculated as weight (kg)/height $(m)^2$.

Follow-up information was obtained at the outpatient's clinic or by a review of the medical records. Follow-up was completed for all patients (100%). The primary endpoint was defined as all-cause mortality, and the secondary endpoint was the occurrence of the MACE, which included all-cause death, non-fatal myocardial infarction (MI), heart failure (HF) and target lesion revascularization (TLR) related to PCI procedure and occurring in the follow-up period.

HF was diagnosed if a patient showed signs of exertional dyspnea, orthopnea, rales in more than one-third of the lung fields, elevated jugular venous pressure or pulmonary congestion on chest X-ray related to cardiac dysfunction. MI was defined as 2 or more of the following: (1) typical chest pain >20 min duration not relieved by nitroglycerin; (2) serial ECG recordings showing changes from baseline in ST-T and/or Q-waves in 2 or more contiguous leads; (3) elevation of serum creatine kinase >2-fold of normal. TLR was defined as repeat PCI or coronary bypass surgery, performed because of restenosis or a new stenotic lesion in the target vessel. Definite and possible stent thrombosis were defined on the basis of the Academic Research Consortium

Table 1. Patient Characteristics in the BMS Era

	Men		Women	
	<75 years (n=406)	≥75 years (n=132)	<75 years (n=65)	≥75 years (n=67)
Age (years)	64±8‡	80±4	66±5	80±5†
BMI (kg/m²)	23.4±2.7	23.2±2.8	23.7±3.7	23.7±3.7
UAP, n (%)	248 (61)	86 (65)	47 (72)	52 (77)
Coronary risk factors				
Hypertension, n (%)	288 (71)‡	110 (83)	50 (77)	58 (87)
Hypercholesterolemia, n (%)	292 (72)	82 (62)	50 (77)	62 (93)#
Diabetes mellitus, n (%)	205 (51)	56 (42)	32 (49)	42 (63)#
Smoking, n (%)	182 (45)‡,¶	41 (31)	17 (26)	4 (6)#,†
Family history of CAD, n (%)	80 (20)	40 (31)	16 (24)	21 (31)
Serum creatinine ≥177 μmol/l, n (%)	26 (6)	29 (22)	9 (14)	8 (12)#
Peripheral vascular disease, n (%)	32 (8)‡	31 (24)	4 (6)	13 (19)†
Stroke, n (%)	62 (15)‡	41 (31)	14 (22)	10 (15)#
Previous MI, n (%)	145 (36)	51 (39)	23 (35)	33 (49)#,†
Previous HF, n (%)	53 (13)	20 (15)	8 (12)	11 (16)
No. of diseased vessels				
1	224 (55)‡	56 (42)	39 (60)	16 (24)#,†
2	140 (35)	59 (45)	21 (32)	27 (40)
3	42 (10)	17 (13)	5 (8)	23 (36)#,†
LVEF (%)	52±10	52±12	49±10	50±9
LVEF <40%, n (%)	81 (20)	21 (16)	12 (18)	11 (17)
Glycemic status				
Fasting glucose (mmol/L)	106±26	100±25	111±38	114±36#
HbA1c (%)	6.1±1.2	5.9±0.9	6.3±1.3	6.3±1.2#
Lipid profile				
Total cholesterol (mmol/L)	189±35¶	184±27	210±40	202±35#
Triglycerides (mmol/L)	135±79‡	109±57	123±67	107±40
HDL-cholesterol (mmol/L)	40±10¶	42±13	49±12	46±13#
LDL-cholesterol (mmol/L)	122±32	119±25	138±38	134±27#
Hb (g/dl)	14.3±1.7‡,¶	12.9±1.6	12.1±1.5	12.0±1.3#
Medical treatment				
Aspirin, n (%)	367 (90)	110 (83)	64 (99)	56 (84)†
β-blocker, n (%)	255 (63)	84 (64)	40 (52)	45 (67)
Calcium-channel blocker, n (%)	276 (68)	95 (72)	48 (74)	53 (79)
ACEI, n (%)	107 (26)	35 (27)	10 (15)	18 (26)
ARB, n (%)	52 (13)	25 (19)	14 (21)	14 (21)
Statin, n (%)	195 (48)	55 (42)	38 (59)	30 (45)
Average BMS diameter (mm)	3.2±0.3	3.1±0.3	3.0±0.3	2.9±0.3
Average BMS length (mm)	16.4±4.4	16.5±3.5	15.9±2.7	16.2±2.4
Complete revascularization in patients with multivessel disease, n (%)	264 (65)	84 (64)	33 (51)	35 (52)#,∫

#P<0.05 vs men ≥75 years, †P<0.05 vs women <75 years, ‡ vs men ≥75 years, ¶ vs women <75 years, ∫ vs men <75 years.

BMS, bare metal stent; BMI, body mass index; UAP, unstable angina pectoris; CAD, coronary artery disease; MI, myocardial infarction; HF, heart failure; LVEF, left ventricular ejection fraction; Hb, hemoglobin; HDL, high-density lipoprotein; LDL, low-density lipoprotein; ACEI, angiotensin-converting enzyme inhibitor; ARB, angiotensin II receptor blocker.

stent thrombosis classification.[21] Complete revascularization (CR) on QCA was defined as a residual stenosis <20% in the 3 major coronary arteries and their major branches (branch diameter >2 mm).

The clinical and angiographic characteristics and the incidence of MACE were compared among the 4 groups in the BMS and SES eras using the chi-square test (or Fisher's exact test) for categorical data, or analysis of variance (ANOVA) was performed for continuous data. For univariate analysis, the following clinical variables and risk factors were regarded as covariates: age, gender, glycemic status (fasting glucose and HbA_{1c} level), lipid profiles (TC, TG, HDL-C, LDL-C), creatinine level, BMI and the use of cardiovascular medications. On the basis of the results of univariate analysis, multivariate logistic regression analysis was performed to investigate the independent predictors of small AVD (<3.0 mm) and long ALL (>20 mm). Event-free survival was estimated using the Kaplan-Meier method, and differences were assessed using the log-rank test. A P value <0.05 was considered to be statistically significant. All analyses were performed using Stat-View software, version 5.0 (SAS Institute Inc, Cary, NC, USA).

Results

Baseline Characteristics in the BMS Era

Table 1 shows the baseline characteristics of the 4 groups in the BMS era: 406 men <75 years old, 132 men ≥75 years old, 65 women <75 years old, and 67 women ≥75 years old. Compared with men ≥75 years old, women ≥75 years old had higher levels of fasting blood glucose, HbA_{1c}, TC and LDL-C, lower levels of hemoglobin, and higher prevalence of smoking. A higher prevalence of peripheral vascular disease was seen in women ≥75 years old compared with women <75 years old. Furthermore, among the 4 groups, the prevalence of previous MI and 3-vessel disease was the highest in women ≥75 years old. There were no significant differences in the medical treatment of groups except for aspirin use.

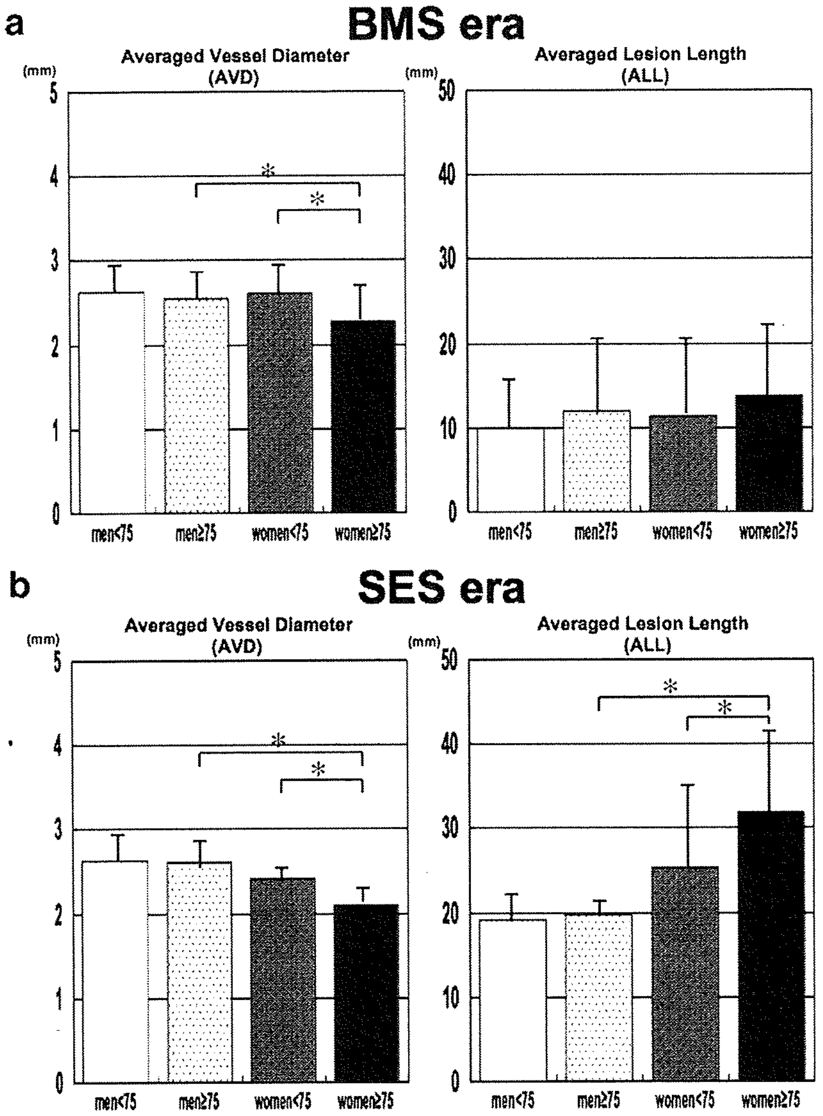
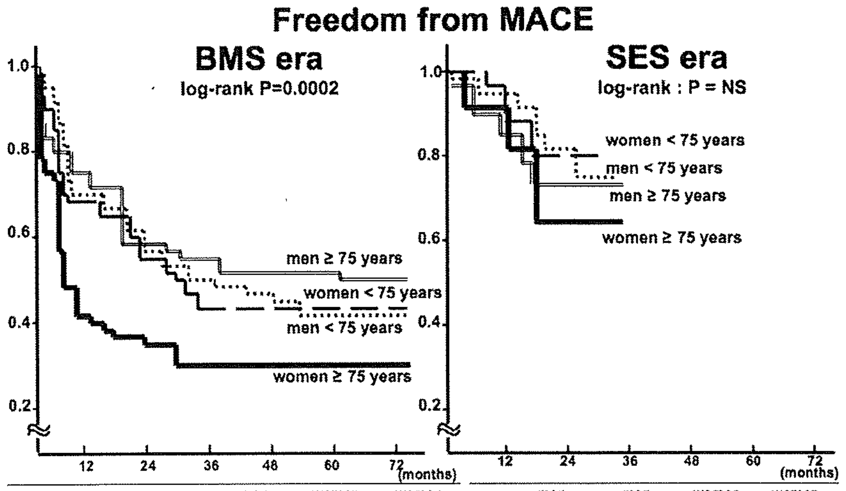


Figure 2. Comparison of quantitative coronary angiography results of AVD, ALL among the 4 groups in (**a**) bare metal stent (BMS) era and (**b**) sirolimus-eluting stent (SES) era. *$P < 0.05$.

Table 2. Univariate and Multivariate Analyses of Data in the BMS Era

	Univariate analysis		Multivariate analysis	
	OR (95%CI)	P value	OR (95%CI)	P value
Predictors of small vessel diameter (AVD <3.0 mm)				
Fasting glucose	0.996 (0.993–0.999)	0.0025	0.996 (0.994–0.999)	0.0155
Total cholesterol	1.002 (0.998–1.006)	0.4309		
Triglycerides	0.997 (0.996–0.999)	0.0002	0.998 (0.996–0.999)	0.0016
HDL-cholesterol	1.003 (0.992–1.015)	0.5773		
LDL-cholesterol	1.004 (1.000–1.009)	0.0755		
HbA_{1c}	1.002 (0.949–1.058)	0.9369		
Creatinine >177 μmol/L	0.937 (0.500–1.756)	0.8399		
Hypertension	0.819 (0.577–1.164)	0.2661		
Women ≥75 years old	28.566 (3.965–205.803)	0.0009	26.523 (3.676–191.357)	0.0011
Predictors of long lesion length (ALL >20 mm)				
Fasting glucose	1.003 (1.001–1.006)	0.0124	1.003 (0.999–1.007)	0.0954
Total cholesterol	1.000 (0.997–1.004)	0.9786		
Triglycerides	1.001 (1.000–1.003)	0.0275	1.002 (1.000–1.004)	0.1088
HDL-cholesterol	0.987 (0.977–0.997)	0.0127	0.981 (0.966–0.996)	0.0135
LDL-cholesterol	0.999 (0.995–1.003)	0.5826		
HbA_{1c}	1.011 (0.970–1.054)	0.6035		
Creatinine >177 μmol/L	1.257 (0.743–2.125)	0.3938		
Hypertension	1.363 (1.013–1.834)	0.0409	1.080 (0.723–1.613)	0.7055
Women ≥75 years old	3.235 (2.144–4.881)	<0.0001	4.564 (2.533–8.223)	<0.0001

OR, odds ratio; CI, confidence interval; AVD, average vessel diameter; ALL, average lesion length. Other abbreviations see in Table 1.



BMS	men < 75 years	men ≥ 75 years	women < 75 years	women ≥ 75 years	SES	men < 75 years	men ≥ 75 years	women < 75 years	women ≥ 75 years
death, n (%)	9 (2)	1 (1)	0 (0)	8 (11)		7 (2)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
non-fatal MI, n (%)	45 (11)	10 (8)	1 (2)	6 (9)		1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)
HF, n (%)	14 (3)	13 (10)	5 (8)	16 (25)		2 (1)	13 (9)	1 (2)	3 (6)
revasc, n (%)	134 (33)	49 (37)	28 (43)	37 (55)		50 (11)	9 (6)	3 (5)	2 (3)

Figure 3. Kaplan-Meier curves of freedom from major adverse cardiovascular events (MACE) in bare metal stent (BMS, **Left**) and sirolimus-eluting stent (SES, **Right**) era. MACE includes death, non-fatal myocardial infarction (MI), heart failure (HF) and target lesion revascularization (revasc).

Table 3. Patient Characteristics in the SES Era

	Men		Women	
	<75 years old (n=450)	≥75 years old (n=145)	<75 years (n=57)	≥75 years (n=52)
Age (years)	63±8‡,¶	79±4	68±7	80±5†
BMI (kg/m²)	24.5±3.0	23.9±3.5	24.0±2.9	22.9±4.2
UAP, n (%)	54 (12)‡,¶	35 (24)	16 (28)	20 (39)#
Coronary risk factors				
Hypertension, n (%)	352 (78)	113 (78)	49 (85)	45 (88)
Hypercholesterolemia, n (%)	278 (62)¶	77 (53)	46 (79)	43 (82)#
Diabetes mellitus, n (%)	249 (55)	88 (61)	28 (48)	28 (55)
Smoking, n (%)	180 (40)¶	51 (35)	17 (30)	7 (14)#,†
Family history of CAD, n (%)	154 (34)‡	27 (19)	24 (41)	7 (14)†
Serum creatinine ≥177 μmol/L, n (%)	21 (5)	5 (3)	2 (3)	5 (10)#
Peripheral vascular disease, n (%)	38 (8)‡	29 (20)	7 (12)	3 (6)#
Stroke, n (%)	40 (9)‡	25 (17)	10 (17)	6 (12)
Previous MI, n (%)	222 (49)	73 (50)	29 (49)	24 (48)
Previous HF, n (%)	72 (16)	25 (17)	9 (15)	9 (18)
No. of diseased vessels				
1	215 (48)‡	52 (36)	19 (33)	11 (22)
2	158 (35)¶	46 (32)	24 (42)	21 (40)
3	70 (17)‡	47 (32)	14 (25)	20 (38)#
LVEF (%)	48±9	46±11	48±10	50±10
LVEF <40%, n (%)	81 (18)	38 (26)	13 (22)	9 (18)
Glycemic status				
Fasting glucose (mmol/L)	128±47	126±45	118±41	123±53
HbA1c (%)	6.6±4.4	6.1±1.0	6.1±1.0	6.3±1.2
Lipid profile				
Total cholesterol (mmol/L)	182±32‡,¶	173±26	202±49	184±30#,†
Triglycerides (mmol/L)	166±109	149±84	150±95	143±51
HDL-cholesterol (mmol/L)	41±10¶	40±11	51±14	40±15†
LDL-cholesterol (mmol/L)	110±28‡,¶	104±23	122±46	117±27#
Hb (g/dl)	13.8±1.8‡,¶	13.1±1.3	12.4±1.5	11.3±1.5#,†
Medical treatment				
Aspirin, n (%)	367 (90)	110 (83)	64 (99)	56 (84)†
β-blocker, n (%)	340 (76)	102 (70)	43 (74)	40 (78)
Calcium-channel blocker, n (%)	207 (46)	74 (51)	30 (52)	37 (73)#,†
ACEI, n (%)	121 (27)	38 (26)	9 (16)	11 (22)
ARB, n (%)	129 (29)	50 (35)	18 (31)	29 (55)#,†
Statin, n (%)	272 (60)‡,¶	72 (50)	46 (79)	26 (51)
Average SES diameter (mm)	2.9±0.3	2.9±0.3	2.9±0.3	2.8±0.3
Average SES length (mm)	21.6±4.3	21.0±3.9	25.9±3.2	30.8±3.6#
Complete revascularization in patients with multivessel disease, n (%)	351 (77)	109 (75)	38 (71)	34 (72)

#P<0.05 vs men ≥75 years, †P<0.05 vs women <75 years. ‡ vs men ≥75years, ¶ vs women <75 years.
SES, sirolimus-eluting stent. Other abbreviations see in Table 1.

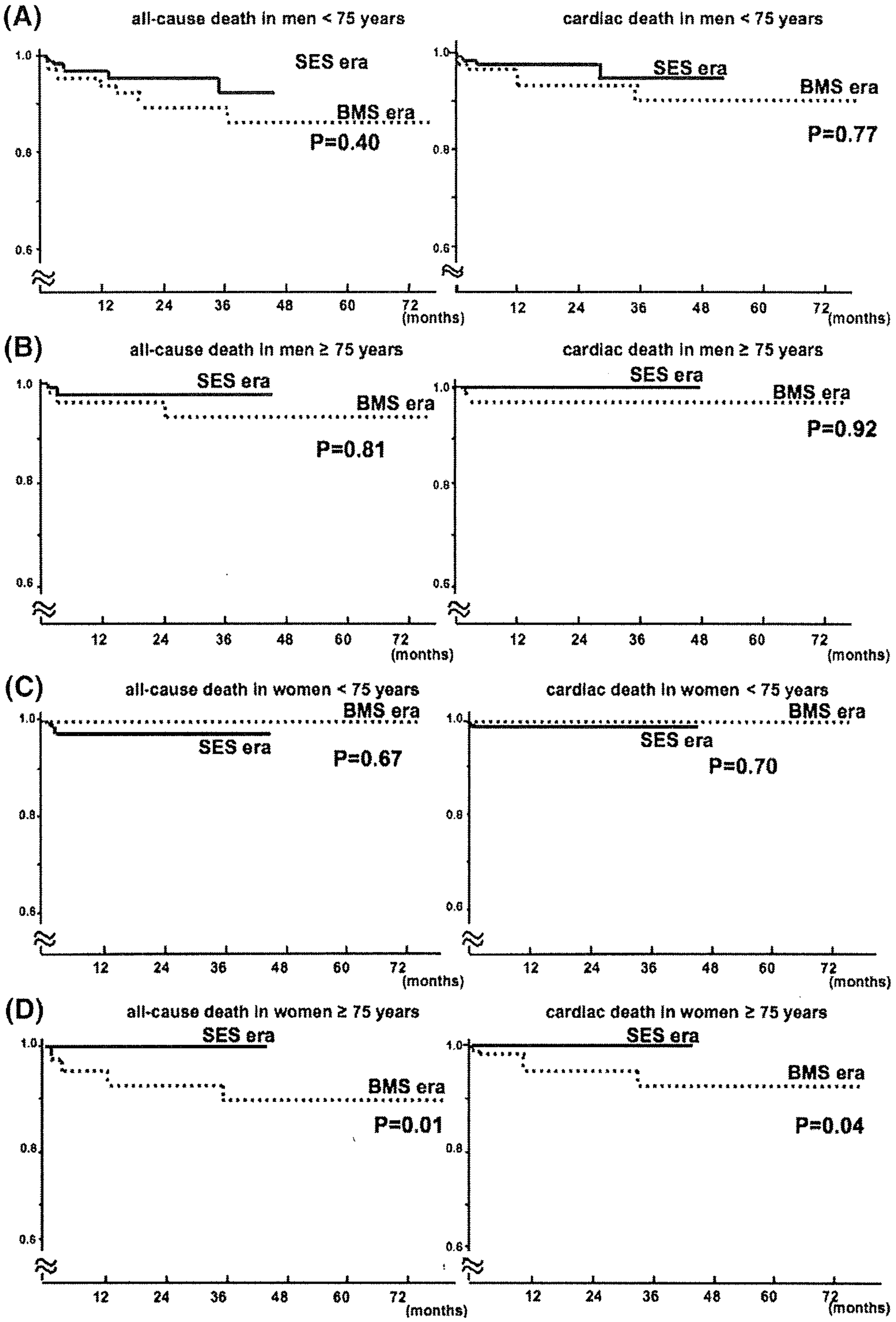


Figure 4. Kaplan-Meier curves of freedom from all-cause death and cardiac death in bare metal stent (BMS) era and sirolimus-eluting stent (SES) era. (**A**) men <75 years, (**B**) men ≥75 years, (**C**) women <75 years, (**D**) women ≥75 years.

QCA in the BMS Era

The results of QCA in the BMS era are summarized in **Figure 2a**. The AVD in women ≥75 years old was statistically significantly smaller than that in men ≥75 years old or <75 years old. ALL in women ≥75 years old was 13.8± 10.1 mm, which was not statistically significantly different from the other groups.

To investigate the independent predictors of small AVD (<3.0 mm) and long ALL (>20 mm), we performed univariate and multivariate logistic regression analysis (**Table 2**). Univariate analysis showed that hypercholesterolemia, TG, fasting blood glucose and women ≥75 years old were significant predictors for small AVD. By multivariate analysis, all of these variables were independent predictors of small

AVD. Regarding long ALL, TG, HDL-C, fasting blood glucose, hypertension and women ≥75 years old were significant predictors by univariate analysis. Multivariate analysis revealed that HDL-C and women ≥75 years old were strong independent predictors for long ALL.

MACE in the BMS Era

The event-free survival curve of the BMS era is shown in **Figure 3**. During the follow-up period of 75 months (median), women ≥75 years old had the highest incidence of cardiovascular events among the 4 groups. In particular, the incidence of TLR was high (55%), and the occurrence of death and HF was 11% and 25%, respectively, which were significantly higher in women ≥75 years old compared with other 3 groups. The prevalence of restenosis was 43% in elderly women with MACE.

Baseline Characteristics in the SES Era

Baseline characteristics of patients in the SES era are summarized in **Table 3**. The 4 groups consisted of 450 men <75 years old, 145 men ≥75 years old, 57 women <75 years old, and 52 women ≥75 years old. Overall, the patients' demographics were similar in the BMS era and the SES era, except for the prevalence of unstable angina pectoris and previous MI. When comparing elderly women in the BMS era and those in the SES era, their characteristics were similar except for the prevalence of unstable angina pectoris and peripheral vascular disease and the use of angiotensin-receptor blockers.

QCA in the SES Era

Figure 2b shows the results of QCA in the SES era. Although AVD was comparable between the 2 eras, ALL in the SES era (31.9±10.2mm) was approximately 3-fold longer than that in the BMS era. In the SES era, smaller AVD and longer ALL were observed in women ≥75 years old, compared with women <75 years old and men ≥75 years old.

MACE in the SES Era

During the follow-up period of 34 months (median) in the SES era, there were no significant differences in MACE among the 4 groups (**Figure 3**). The incidence of TLR was low (3%) in women ≥75 years old.

As shown in **Figure 4**, the incidence of all-cause death and cardiac death in women ≥75 years old in the SES era was significantly lower than that of the BMS era. In detail, 9 patients died from: sepsis (n=1), cerebral bleeding (n=3), HF (n=3) and sudden death (n=2) in the BMS era, whereas no patients died in the SES era.

To clarify the role of CR, we compared the occurrence of MACE among the 4 groups, elderly women with and without CR in the BMS era (n=35 and 32, respectively) and those with and without CR in the SES era (n=34 and 18, respectively). As shown in **Figure 5**, there were no significant differences between patients with and without CR in the BMS era. In the SES era, patients with CR had a lower occurrence of MACE than patients without CR.

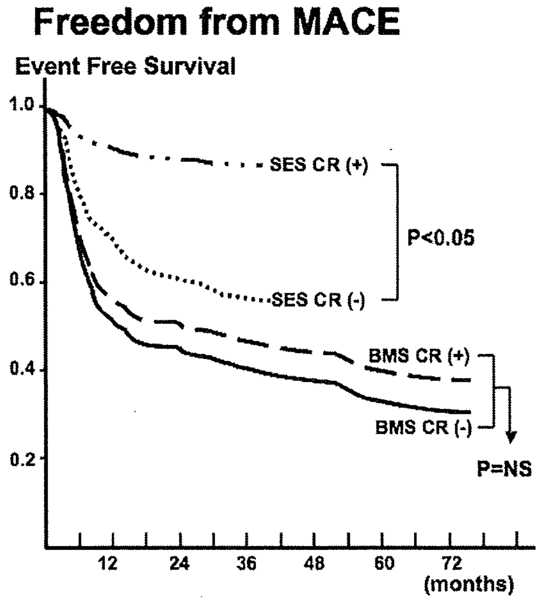


Figure 5. Kaplan-Meier curves of freedom from major adverse cardiovascular events (MACE) among women ≥75 years with and without complete revascularization (CR) in the bare metal stent (BMS) era (n=35 and 32, respectively) and those with and without CR in the sirolimus-eluting stent (SES) era (n=34 and 18, respectively).

Discussion

In the present study, elderly women (women ≥75 years old) who underwent PCI had angiographically smaller and longer coronary atherosclerotic lesions than men and women aged <75 years old. Although there was a high prevalence of MACE in this particular population in the BMS era, the use of SES in the current era reduced the occurrence of MACE, primarily by reducing all-cause death and TLR.

Morphological Characteristics of CAD in Elderly Women

Sharaf et al using severity scores to describe the advanced and diffuse atherosclerotic changes in 323 women with CAD.[22] This score assesses the severity of a diseased lesion by its percentage diameter stenosis; however, that method can underestimate the severity of stenosis, particularly in patients with diffuse coronary narrowing, because it is difficult to identify a normal reference segment on angiography. Therefore, we used QCA to assess the whole coronary tree in a large population (n=1,374). As reported previously, QCA is more accurate, objective and reproducible than manual caliper measurements.[19,23,24] The parameters we used (ie, AVD and ALL) enabled us to evaluate in detail the absolute values for the entire coronary tree, and our QCA analysis revealed that severe atherosclerotic changes had developed in women ≥75 years old (**Figures 2,4**). In addition, the morphological characteristics of CAD were more severe in the SES era than in the BMS era, because the ALL was >30mm on average. We previously reported that morphological changes such as small vessels and diffuse narrowing developed in patients with diabetes mellitus or impaired glucose tolerance.[19] As shown in **Table 1**, women ≥75 years old had higher fasting glucose and HbA_{1c} levels than similar aged men. Additionally, glucose metabolism, represented by the fasting glucose level, was a significant determinant for small vessels and diffuse coronary narrowing (**Table 2**). Therefore, elderly women (≥75 years old) may have a high prevalence of abnormal glucose tolerance than other patients and this metabolic abnormality seems to be an important factor in the development of severe coronary atherosclerotic changes (**Table 2**).

Improved Prognosis of Elderly Women With CAD in the SES Era

In the BMS population of the present study there was a high incidence of MACE in women ≥75 years old. Small vessel size and long lesion length were associated with development of restenosis in the BMS era.[25,26] and we found a strikingly high rate of TLR in women ≥75 years old in the present study. Because of the higher risk of developing restenosis, the benefit of CR on long-term prognosis might be traded off, as shown in **Figure 5**. The incidence of death and HF in women ≥75 years old were also higher than in other groups.

Many recent studies have demonstrated that SES strongly inhibit neointimal hyperplasia and reduce the need for TLR.[1,2] SES can be used in complex lesions that seemed unsuitable for PCI in the BMS era.[3–7] Considering the greater efficacy of SES and their increased use in lesions that were unsuitable for PCI in women ≥75 years old (eg, ALL >30 mm on average), it can be proposed that the improved clinical outcomes, including all-cause and cardiac death, might be related to a reduction in ischemic events, which has resulted from the low restenosis rates associated with the use of SES. In addition, the reduction in ischemic events may prevent HF and arrhythmias.

Study Limitations

There are some biases and differences in patient selection for this retrospective study; for example, the difference between the BMS and SES eras for lesion length in elderly women may reflect a change in the indication for PCI. However, the general policy and procedure of PCI performed at our institution did not change from 1 era to the next. Moreover, the increased usage of angiotensin-converting enzyme inhibitors/angiotensin II receptor blockers and statins should be taken into consideration as modifiers of the results. Although the prevalence of unstable angina differed between the BMS and SES era, an unstable clinical presentation did not exert a significant impact on outcome as reported in previous studies.[27–29]

Conclusions

Elderly women with CAD have particular characteristics of coronary atherosclerosis, such as small vessels and diffuse coronary narrowing, which could be related to abnormal glucose tolerance and/or dyslipidemia. In the BMS era, this particular patient group had the worst long-term prognosis compared with men or women <75 years old. However, in the SES era, this difference in prognosis has been alleviated, mainly because of a reduction in all-cause death and TLR.

Acknowledgments

We would like to acknowledge Mrs Hiromi Maeda for her excellent secretarial assistance, and the nurses and residents in the coronary care unit of the National Cardiovascular Center for their cooperation.

References

1. Morice MC, Serruys PW, Sousa JE, Fajadet J, Ban Hayashi E, Perin M, et al; RAVEL Study Group. Randomized Study with the Sirolimus-Coated Bx Velocity Balloon-Expandable Stent in the Treatment of Patients with de Novo Native Coronary Artery Lesions. A randomized comparison of a sirolimus-eluting stent with a standard stent for coronary revascularization. *N Engl J Med* 2002; **346:** 1773–1780.
2. Moses JW, Leon MB, Popma JJ, Fitzgerald PJ, Holmes DR, O'Shaughnessy C, et al, SIRIUS Investigators. Sirolimus-eluting stents versus standard stents in patients with stenosis in a native coronary artery. *N Engl J Med* 2003; **349:** 1315–1323.
3. Schofer J, Schlüter M, Gershlick AH, Wijns W, Garcia E, Schampaert E, et al, E-SIRIUS Investigators. Sirolimus-eluting stents for treatment of patients with long atherosclerotic lesions in small coronary arteries: Double-blind, randomized controlled trial (E-SIRIUS). *Lancet* 2003; **362:** 1093–1099.
4. Schampaert E, Cohen EA, Schlüter M, Reeves F, Traboulsi M, Title LM, et al, C-SIRIUS Investigators. The Canadian study of the sirolimus-eluting stent in the treatment of patients with long de novo lesions in small native coronary arteries (C-SIRIUS). *J Am Coll Cardiol* 2004; **43:** 1110–1115.
5. Ge L, Iakovou I, Cosgrave J, Chieffo A, Montorfano M, Michev I, et al. Immediate and mid-term outcomes of sirolimus-eluting stent implantation for chronic total occlusions. *Eur Heart J* 2005; **26:** 1056–1062.
6. Sakamoto H, Ishikawa T, Mutoh M, Imai K, Mochizuki S. Angiographic and clinical outcomes after sirolimus-eluting stent implantation to de novo ostial lesion of the right coronary artery. *Circ J* 2008; **72:** 880–885.
7. Ishio N, Kobayashi Y, Takebayashi H, Iijima Y, Kanda J, Nakayama T, et al. Impact of drug-eluting stents on clinical and angiographic outcomes in dialysis patients. *Circ J* 2007; **71:** 1525–1529.
8. Wenger NK, Speroff L, Packard B. Cardiovascular health and disease in women. *N Engl J Med* 1993; **329:** 247–256.
9. Merz CN, Kelsey SF, Pepine CJ, Reichek N, Reis SE, Rogers WJ, et al. The Women's Ischemia Syndrome Evaluation (WISE) study: Protocol design, methodology and feasibility report. *J Am Coll Cardiol* 1999; **33:** 1453–1461.
10. Shaw LJ, Bairey Merz CN, Pepine CJ, Reis SE, Bittner V, Kelsey SF, et al, WISE Investigators. Insights from the NHLBI-sponsored Women's Ischemia Syndrome Evaluation (WISE) study. Part I: Gender differences in traditional and novel risk factors, symptom evaluation, and gender-optimized diagnostic strategies. *J Am Coll Cardiol* 2006; **47**(Suppl S): 4S–20S.
11. Bairey Merz CN, Shaw LJ, Reis SE, Bittner V, Kelsey SF, Olson M, et al, WISE Investigators. Insights from the NHLBI-sponsored Women's Ischemia Syndrome Evaluation (WISE) study. Part II: Gender differences in presentation, diagnosis, and outcome with regard to gender-based pathophysiology of atherosclerosis and macrovascular and microvascular coronary disease. *J Am Coll Cardiol* 2006; **47**(Suppl S): 21S–29S.
12. Cowley MJ, Mullin SM, Kelsey SF, Kent KM, Gruentzig AR, Detre KM, et al. Sex differences in early and long-term results of coronary angioplasty in the NHLBI PTCA registry. *Circulation* 1985; **71:** 90–97.
13. Kelsey SF, James M, Holubkov AL, Holubkov R, Cowley MJ, Detre KM. Results of percutaneous transluminal coronary angioplasty in women: 1985–1986 National heart, Lung, and Blood Institute Coronary Angioplasty registry. *Circulation* 1993; **87:** 720–727.
14. Kahn JK, Rutherford BD, McConahay DR, Johnson WL, Giorgi LV, Shimshak TM, et al. Comparison of procedural results and risks of coronary angiography in men and women for conditions other than acute myocardial infarction. *Am J Cardiol* 1992; **69:** 1241–1242.
15. Malenka DJ, O'Connor GT, Quinton H, Wennberg D, Robb JF, Shubrooks S, et al. Differences in outcomes between women and men associated with percutaneous transluminal coronary angioplasty: A regional prospective study of 13061 procedures [Northern New England Cardiovascular Disease Study Group]. *Circulation* 1996; **94**(Suppl II): II-99–II-104.
16. Bell MR, Holmes DR Jr, Berger PB, Garratt KN, Bailey KR, Gersh BJ. The changing in-hospital mortality of women undergoing percutaneous transluminal coronary angioplasty. *JAMA* 1993; **269:** 2091–2095.
17. De Gregorio J, Kobayashi Y, Albiero R, Reimers B, Di Mario C, Finci L, et al. Coronary artery stenting in the elderly: Short-term outcome and long-term angiographic and clinical follow-up. *J Am Coll Cardiol* 1998; **32:** 577–583.
18. ten Berg JM, Voors AA, Suttorp MJ, Ernst SM, Mast EG, Bal E, et al. Long-term results after successful percutaneous transluminal coronary angioplasty in patients over 75 years of age. *Am J Cardiol* 1996; **77:** 690–695.
19. Kataoka Y, Yasuda S, Morii I, Otsuka Y, Kawamura A, Miyazaki S. Quantitative coronary angiographic studies of patients with angina pectoris and impaired glucose tolerance. *Diabetes Care* 2005; **28:** 2217–2222.
20. Takagi A, Tsurumi Y, Ishii Y, Suzuki K, Kawana M, Kasanuki H. Clinical potential of intravascular ultrasound for physiological assessment of coronary stenosis: Relationship between quantitative ultrasound tomography and pressure-derived fractional flow reserve. *Circulation* 1999; **100:** 250–255.

21. Cutlip DE, Windecker S, Mehran R, Boam A, Cohen DJ, van Es GA, et al. Academic Research Consortium: Clinical end points in coronary stent trials: A case for standardized definitions. *Circulation* 2007; **115:** 2344–2351.
22. Sharaf BL, Pepine CJ, Kerensky RA, Reis SE, Reichek N, Rogers WJ, et al, WISE Study Group. Detailed angiographic analysis of women with suspected ischemic chest pain (pilot phase data from the NHLBI-sponsored Women's Ischemia Syndrome Evaluation [WISE] Study Angiographic Core Laboratory). *Am J Cardiol* 2001; **87:** 937–941.
23. Ledru F, Ducimetière P, Battaglia S, Courbon D, Beverelli F, Guize L, et al. New diagnostic criteria for diabetes and coronary artery disease: Insights from an angiographic study. *J Am Coll Cardiol* 2001; **37:** 1543–1550.
24. Brown BG, Bolson F, Frimer M, Dodge HT. Quantitative coronary angiography: Estimation of dimensions, hemodynamic resistance and atheroma mass of coronary lesions using the arteriogram and digital computation. *Circulation* 1977; **55:** 329–337.
25. Mosca L, Jones WK, King KB, Ouyang P, Redberg RF, Hill MN. Awareness, perception, and knowledge of heart disease risk and prevention among women in the United States. *Arch Fam Med* 2000; **9:** 506–515.
26. Mosca L, Ferris A, Fabunmi R, Robertson RM, American Heart Association. Tracking women's awareness of heart disease: An American Heart Association national study. *Circulation* 2004; **109:** 573–579.
27. Valgimigli M, Dawkins K, Macaya C, de Bruyne B, Teiger E, Fajadet J, et al. Impact of stable versus unstable coronary artery disease on 1-year outcome in elective patients undergoing multivessel revascularization with sirolimus-eluting stents: A subanalysis of the ARTS II trial. *J Am Coll Cardiol* 2007; **49:** 431–441.
28. Halon DA, Flugelman MY, Merdler A, Rennert H, Shahla J, Lewis BS. Long-term (10-year) outcome in patients with unstable angina pectoris treated by coronary balloon angioplasty. *J Am Coll Cardiol* 1998; **32:** 1603–1609.
29. Bentivoglio LG, Holubkov R, Kelsey SF, Holmes DR Jr, Sopko G, Cowley MJ, et al. Short and long term outcome of percutaneous transluminal coronary angioplasty in unstable versus stable angina pectoris: A report of the 1985–1986 NHLBI PTCA registry. *Cathet Cardiovasc Diagn* 1991; **23:** 227–238.

冠血行再建術

夜久 均，土井 潔　京都府立医科大学大学院医学研究科心臓血管・呼吸器外科学

心臓血管外科手術において，冠動脈バイパス術(coronary artery bypass grafting：CABG)は症例数が最も多く，また虚血性心疾患に対する治療だけでなく，他の疾患に対する手術においても必要になる局面は多い。弁膜症，大血管疾患の患者で無症候性の冠動脈狭窄が見つかる場合もあり，また大動脈基部置換術などの冠動脈移植を伴う手技では，CABGが必要になることも想定に入れておかなければならない。したがってCABGの基本手技は，心臓血管外科医がまず最初に習熟するべきであり，また常に満足する結果を出さなければならない。

ここでは筆者が日常行っている標準術式としてのCABGをその手順通りに解説し，日常の臨床にすぐに役立てることができる参考書として利用できるようにすることを目的とする。

グラフト採取

1 内胸動脈

胸骨正中切開の後，内胸動脈採取用のリトラクターを使用し，採取側の胸壁を挙上する。筆者は独自に開発した胸骨挙上器(Mera社)を使用している(**図1**)。これを通常の開胸器と組み合わせて使用する。胸膜を内胸筋膜から，開胸にならないように注意深く剥離する。内胸筋膜を中枢側の筋膜が欠損している部分を突破口にして切開していくが，筆者はハーモニックスカルペルの腹側を使って，内胸静脈の直上を静脈を損傷しないように切開する。切開した筋膜の断端を上に持ち上げながら，内胸動脈にかぶさっている内胸静脈をハーモニックスカルペルで跳ね上げるようにして上方へ変移させると内胸動脈が露出する(**図2a**)。さらに内胸動脈上の脂肪組織を飛ばすと分枝が見えてくるのでそれをハーモニックスカルペルの蛋白凝固にて切離する(**図2b**)。

枝を処理し内胸動脈を展開するとその奥にもう1本の内胸静脈が現れるので，それを残し内胸動脈のみを剥離する。中枢側では胸壁，鎖骨下静脈，内胸静脈を三辺とする三角形の中に内胸動脈は位置し，特に右側は内胸静脈が胸壁から比較的遠位部から遊離しているため，この三角形の面積が大きく，右内胸動脈も胸壁から遊離してこの三角形の中の脂肪組織に埋もれている場合が多く，この部分の剥離の際には内胸動脈を損傷しないように注意を要する(**図3**)。中枢側は第1肋骨上縁まで遊離し，しばしば比較的大きな動脈(外側肋骨動脈)が認められるので，切離またはクリップをかける。末梢側は内胸動脈の上腹壁動脈と筋横隔動脈への分岐を越えて剥離する。